



平成30年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年10月30日

上場会社名 山崎製パン株式会社
 コード番号 2212 URL <http://www.yamazakipan.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 飯島 延浩
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 会田 正久
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-3864-3110

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年12月期第3四半期の連結業績(平成30年1月1日～平成30年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第3四半期	785,208	0.8	18,196	△17.2	19,467	△16.1	10,359	△23.0
29年12月期第3四半期	778,782	0.8	21,982	△15.1	23,195	△11.9	13,455	7.3

(注) 包括利益 30年12月期第3四半期 15,686百万円 (△15.0%) 29年12月期第3四半期 18,457百万円 (146.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年12月期第3四半期	47.56	—
29年12月期第3四半期	61.32	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年12月期第3四半期	719,936	351,616	44.8
29年12月期	747,322	345,742	42.3

(参考) 自己資本 30年12月期第3四半期 322,216百万円 29年12月期 316,162百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期	—	—	—	23.00	23.00
30年12月期	—	—	—	—	—
30年12月期(予想)	—	—	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

※29年12月期 期末配当金の内訳 普通配当20円00銭 創業70周年記念配当3円00銭

3. 平成30年12月期の連結業績予想(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,064,300	1.1	27,900	△7.3	30,100	△6.4	16,200	△35.5	74.38

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年12月期3Q	220,282,860 株	29年12月期	220,282,860 株
-----------	---------------	---------	---------------

② 期末自己株式数

30年12月期3Q	2,891,275 株	29年12月期	843,554 株
-----------	-------------	---------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

30年12月期3Q	217,801,265 株	29年12月期3Q	219,439,727 株
-----------	---------------	-----------	---------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○ 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成30年1月1日～平成30年9月30日）におけるわが国経済は、景気は回復基調で推移しましたが、台風や豪雨、地震など相次ぐ自然災害もあり個人消費は力強さを欠きました。

当業界におきましては、お客様の節約志向が続き販売競争が激化する中で、7、8月の記録的な猛暑の影響を受け、パン類の消費は落ち込みました。さらに、原料価格の上昇に加え、人手不足を背景とした人件費や物流コスト、エネルギーコストの増加により収益が圧迫される厳しい経営環境となりました。

このような情勢下にあります、当社グループは、品質向上と新製品開発に積極的に取り組み、「厳選100品」を中心とした主力製品の拡販につとめるとともに、高品質・高付加価値製品を開発する一方で、お客様の節約志向に対応した値頃感のある製品を投入するなど、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、売上確保をはかってまいりました。

本年4月に輸入小麦の政府売渡価格が引き上げられ、これを受けて業務用小麦粉が値上げされました。小麦粉の値上げは3回連続となり、この間、人件費や物流コストの増加に加えエネルギーコストも上昇していることから、当社は、引き続き高品質で安全・安心な製品を提供するため、本年7月1日出荷分から、食パンや菓子パンの主力70品について平均3.8%の値上げを実施しました。

また、本年2月1日に竣工稼働した神戸工場の最新の生産設備と増強された生産能力を活用し、関西・中四国地区を中心にフレッシュな製品提供を強化して売上向上をめざすとともに、大阪第一工場の食パンラインを停止して9月1日から食パンの生産を近隣工場に移管して、稼働率の向上による効率化をはかりました。

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、コンビニエンスストア事業の種蒔きの仕事である商品開発の体制を整備し品質向上と新製品開発に取り組むとともに、首都圏リージョン小委員会を定期的に開催して店舗運営の改善につとめ、ベーカリー機能の導入など店舗機能強化のための改装を推進し、店舗売上の増加をめざしました。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は7,852億8百万円（対前年同期比100.8%）となりましたが、記録的な猛暑の影響により売上が伸び悩む中で、人件費や物流コスト、エネルギーコストの増加に加え、神戸工場稼働に伴う減価償却費の負担増もあり、営業利益は181億96百万円（対前年同期比82.8%）、経常利益は194億67百万円（対前年同期比83.9%）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、自然災害による特別損失を計上したこともあり103億59百万円（対前年同期比77.0%）となりました。

セグメント別の状況

<食品事業>

食品事業の主要製品別の売上状況は次のとおりであります。

①食パン部門（売上高739億9百万円、対前年同期比100.1%）

食パンは、販売を強化した「ロイヤルブレッド」が好調に推移し、健康志向製品の「ダブルソフト全粒粉」が寄与して「ダブルソフト」シリーズが大幅に伸長しました。7月に入り、猛暑の影響により売上が伸び悩みましたが、自家製発酵種ルヴァンを活用した「新食感宣言ルヴァン」を9月から全国発売して取扱拡大につとめ、前年同期の売上を確保しました。

②菓子パン部門（売上高2,687億円、対前年同期比100.5%）

菓子パンは、猛暑の影響もあり第3四半期は厳しい販売状況となりましたが、「ホワイトデニッシュショコラ」などのペストリーが好調に推移し、新規格の小ぶりのコッペパンやプレミアムスナックスティックが大きく伸長するとともに、自家製発酵種ルヴァンを活用した「塩バターフランスパン」などのハードロールが伸長し、前年同期の売上を上回りました。

③和菓子部門（売上高500億65百万円、対前年同期比97.5%）

和菓子は、上半期の和生菓子の不振が影響し売上は前年同期を下回りましたが、6月中旬より、主力の大福、まんじゅう、どら焼きや彼岸のおはぎの消費期限を延長して取扱拡大につとめましたところ、手応えをもって売上回復傾向となりました。

④洋菓子部門（売上高962億5百万円、対前年同期比101.3%）

洋菓子は、主力の2個入り生ケーキや「まるごとバナナ」などのチルドケーキが伸長するとともに、「大きなシュークリーム」などのシュークリームや「イチゴスペシャル」などのスナックケーキが好調に推移し、コンビニエンスストアチェーン向け製品対応を強化した効果もあり、売上増となりました。

⑤調理パン・米飯類部門（売上高1,235億40百万円、対前年同期比104.0%）

調理パンは、「こだわりソースの焼きそばパン」などのロールパンが好調に推移するとともに、(株)サンデリカにおいて大手コンビニエンスストアチェーンとの米飯類の取引が拡大したことに加え、夏場に調理麺の売上が拡大し、調理パン・米飯類は好調な売上となりました。

⑥製菓・米菓・その他商品類部門（売上高1,215億4百万円、対前年同期比101.7%）

製菓・米菓・その他商品類は、(株)不二家の「ホームパイ」や(株)東ハトの「ポテコ」などのスナックが好調に推移しました。また、ヤマザキビスケット(株)は、「ノアール」や「ルヴァンプライムスナック」の新製品を投入して品揃えを充実し取扱拡大につとめました。

以上の結果、食品事業の売上高は 7,339 億 25 百万円（対前年同期比 101.1%）、営業利益は 174 億 21 百万円（対前年同期比 82.0%）となりました。

<流通事業>

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、原材料や製法の見直し等、品質向上をはかったベストセクションおにぎりを本年2月から全国発売し、5月には「助六寿司」や「いなり寿司」の品質向上を行い、お客様の好評を得るとともに、麺の品質を向上させた調理麺が好調に推移しました。既存店売上は前年同期を上回りましたが、直営店舗数の減少により営業総収入は 432 億 3 百万円（対前年同期比 96.0%）となり、営業損失は 8 億 6 百万円（前年同期は 8 億 10 百万円の営業損失）となりました。

<その他事業>

その他事業につきましては、売上高は 80 億 79 百万円（対前年同期比 104.3%）、営業利益は 15 億 2 百万円（対前年同期比 126.8%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は 7,199 億 36 百万円で、前連結会計年度末に対して 273 億 86 百万円減少しました。流動資産は 2,500 億 16 百万円で、借入金返済等による現金及び預金の減少や受取手形及び売掛金の減少等により、前連結会計年度末に対して 339 億 92 百万円減少しました。固定資産は 4,699 億 20 百万円で、有形固定資産の新規取得や投資有価証券の増加等により、前連結会計年度末に対して 66 億 6 百万円増加しました。負債合計は 3,683 億 20 百万円で、支払手形及び買掛金等の支払債務の減少や借入金の返済により、前連結会計年度末に対して 332 億 59 百万円減少しました。純資産は 3,516 億 16 百万円で、自己株式の取得による減少がありましたが、利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末に対して 58 億 73 百万円増加しました。

この結果、自己資本比率は 44.8%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しといたしましては、わが国経済は、緩やかな回復が続いていくことが期待されますが、当業界におきましては、お客様の節約志向が続き販売競争が激化する中で、原材料価格の高止まりや原油価格の上昇が懸念され、経営環境は厳しさを増すものと予測されます。

このような状況下にあります、当社グループは、引き続き、品質向上と新製品開発に積極的に取り組むとともに、菓子パンや和洋菓子の一部製品について消費期限を延長して取扱拡大をはかるなど、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進して、業績向上をめざしてまいります。

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、パン、和洋菓子においてヤマザキベストセレクションを全面リニューアルしてブランド力のアップをはかり、業績回復をめざしてまいります。

通期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績の状況と今後の収益環境等を踏まえ、平成30年2月14日公表の平成30年12月期通期の連結業績予想を次のとおり修正いたします。

平成30年12月期通期連結業績予想数値の修正（平成30年1月1日～平成30年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 1,072,000	百万円 36,000	百万円 37,000	百万円 20,000	円 銭 91.14
今回修正予想（B）	1,064,300	27,900	30,100	16,200	74.38
増減額（B－A）	△ 7,700	△ 8,100	△ 6,900	△ 3,800	
増減率（％）	△ 0.7	△ 22.5	△ 18.6	△ 19.0	
（参考）前期連結実績 （平成29年12月期）	1,053,164	30,087	32,143	25,106	114.41

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	132,850	112,420
受取手形及び売掛金	111,765	99,365
商品及び製品	11,693	12,196
仕掛品	1,167	785
原材料及び貯蔵品	9,565	9,467
繰延税金資産	3,984	3,435
その他	13,342	12,726
貸倒引当金	△360	△382
流動資産合計	284,009	250,016
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	365,906	379,707
減価償却累計額	△271,742	△275,414
建物及び構築物(純額)	94,164	104,292
機械装置及び運搬具	477,236	493,617
減価償却累計額	△399,595	△409,329
機械装置及び運搬具(純額)	77,640	84,287
工具、器具及び備品	31,992	33,089
減価償却累計額	△24,638	△25,446
工具、器具及び備品(純額)	7,354	7,643
土地	109,569	109,061
リース資産	15,519	14,144
減価償却累計額	△10,220	△9,610
リース資産(純額)	5,299	4,533
建設仮勘定	13,473	3,041
有形固定資産合計	307,502	312,860
無形固定資産		
のれん	10,887	9,974
その他	8,665	8,110
無形固定資産合計	19,553	18,085
投資その他の資産		
投資有価証券	86,358	91,781
長期貸付金	800	769
退職給付に係る資産	681	681
繰延税金資産	19,379	16,997
その他	31,858	31,635
貸倒引当金	△2,820	△2,890
投資その他の資産合計	136,258	138,974
固定資産合計	463,313	469,920
資産合計	747,322	719,936

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	79,699	73,106
短期借入金	54,578	55,321
リース債務	2,109	1,754
1年内償還予定の社債	140	140
未払法人税等	9,308	2,285
未払費用	39,647	35,520
賞与引当金	4,359	12,189
販売促進引当金	1,156	1,070
店舗閉鎖損失引当金	60	12
資産除去債務	59	42
その他	44,132	32,569
流動負債合計	235,254	214,012
固定負債		
社債	370	230
長期借入金	40,823	31,590
リース債務	3,643	3,120
役員退職慰労引当金	4,092	3,626
環境対策引当金	44	37
退職給付に係る負債	105,180	103,384
資産除去債務	4,458	4,514
その他	7,713	7,804
固定負債合計	166,325	154,307
負債合計	401,580	368,320
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,014	11,014
資本剰余金	9,667	9,667
利益剰余金	276,934	282,246
自己株式	△897	△5,240
株主資本合計	296,718	297,687
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	33,915	37,677
繰延ヘッジ損益	—	0
土地再評価差額金	99	99
為替換算調整勘定	△44	△147
退職給付に係る調整累計額	△14,526	△13,100
その他の包括利益累計額合計	19,443	24,529
非支配株主持分	29,580	29,399
純資産合計	345,742	351,616
負債純資産合計	747,322	719,936

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
売上高	778,782	785,208
売上原価	497,703	504,863
売上総利益	281,078	280,344
販売費及び一般管理費	259,096	262,147
営業利益	21,982	18,196
営業外収益		
受取利息	59	64
受取配当金	598	644
固定資産賃貸収入	436	605
持分法による投資利益	203	201
雑収入	974	784
営業外収益合計	2,271	2,300
営業外費用		
支払利息	627	625
固定資産賃貸費用	194	243
雑損失	235	160
営業外費用合計	1,057	1,028
経常利益	23,195	19,467
特別利益		
固定資産売却益	50	295
収用補償金	244	—
その他	12	28
特別利益合計	307	324
特別損失		
固定資産除売却損	1,195	1,030
災害による損失	—	662
減損損失	468	232
のれん償却額	291	—
その他	140	221
特別損失合計	2,095	2,148
税金等調整前四半期純利益	21,407	17,643
法人税等	7,838	6,918
四半期純利益	13,569	10,725
非支配株主に帰属する四半期純利益	113	366
親会社株主に帰属する四半期純利益	13,455	10,359

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	13,569	10,725
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,317	3,774
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	380	△251
退職給付に係る調整額	2,167	1,422
持分法適用会社に対する持分相当額	23	15
その他の包括利益合計	4,888	4,960
四半期包括利益	18,457	15,686
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	18,251	15,444
非支配株主に係る四半期包括利益	206	241

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成30年2月14日開催の取締役会決議に基づき、自己株式2,047,300株の取得を行っております。この結果、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が4,343百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が5,240百万円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	726,015	45,017	7,749	778,782	—	778,782
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,454	5,166	26,936	38,557	△38,557	—
計	732,469	50,183	34,686	817,340	△38,557	778,782
セグメント利益又は損失(△)	21,248	△ 810	1,184	21,621	360	21,982

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額360百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成30年1月1日至平成30年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	733,925	43,203	8,079	785,208	—	785,208
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,482	5,070	31,168	42,721	△42,721	—
計	740,408	48,273	39,247	827,929	△42,721	785,208
セグメント利益又は損失(△)	17,421	△ 806	1,502	18,116	79	18,196

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額79百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 補足情報

(1) 連結販売実績

(単位: 百万円)

セグメント名称	区 分	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)		比 較 増 減	
		金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	前年同期比
食品事業	食 パ ン	73,865	9.5%	73,909	9.4%	43	100.1%
	菓 子 パ ン	267,450	34.3	268,700	34.2	1,250	100.5
	和 菓 子	51,362	6.6	50,065	6.4	△ 1,297	97.5
	洋 菓 子	95,016	12.2	96,205	12.3	1,189	101.3
	調理パン・米飯類	118,805	15.3	123,540	15.7	4,735	104.0
	製菓・米菓・その他商品類	119,515	15.3	121,504	15.5	1,988	101.7
	食 品 事 業 計	726,015	93.2	733,925	93.5	7,910	101.1
	流 通 事 業	45,017	5.8	43,203	5.5	△ 1,814	96.0
	そ の 他 事 業	7,749	1.0	8,079	1.0	329	104.3
	合 計	778,782	100.0	785,208	100.0	6,425	100.8

(2) 主要子会社実績

(単位: 百万円)

	売 上 高				営 業 利 益			
	前第3四半期	当第3四半期	増 減 額	増 減 率	前第3四半期	当第3四半期	増 減 額	増 減 率
(株)不二家(連結)	75,337	74,949	△ 387	△ 0.5%	△ 79	866	945	—%
(株)サンデリカ	86,704	88,672	1,967	2.3	2,332	1,945	△ 387	△16.6
(株)ヴィ・ド・フランス	24,929	25,088	159	0.6	△ 60	131	191	—
ヤマザキビスケット(株)	23,672	24,055	383	1.6	504	364	△ 140	△27.9
(株)東ハト	18,412	19,315	902	4.9	738	565	△ 173	△23.4

(3) 平成30年12月期第3四半期の単体業績 (平成30年1月1日～平成30年9月30日)

①単体経営成績

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第3四半期	555,993	0.7	13,255	△21.0	15,842	△17.3	9,600	△22.0
29年12月期第3四半期	552,025	1.1	16,774	△5.3	19,157	△0.5	12,314	18.1

②単体財政状態

	総資産	純資産
	百万円	百万円
30年12月期第3四半期	542,076	301,569
29年12月期	560,736	297,703

(注) 単体業績数値は、四半期財務諸表等規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

(4) 単体販売実績

(単位: 百万円)

期別 品 種 別	前第3四半期 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)		当第3四半期 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)		比較増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	前年同期比
食パン	74,350	13.5%	74,460	13.4%	110	100.1%
菓子パン	249,319	45.2	250,661	45.1	1,341	100.5
和菓子	50,829	9.2	49,951	9.0	△877	98.3
洋菓子	66,393	12.0	69,287	12.4	2,894	104.4
調理パン・米飯類	36,892	6.7	39,572	7.1	2,680	107.3
製菓・米菓・その他商品類	33,956	6.1	33,884	6.1	△72	99.8
小計	511,742	92.7	517,819	93.1	6,076	101.2
デイリーヤマザキ事業	50,183	9.1	48,273	8.7	△1,910	96.2
内部消去	△9,900	△1.8	△10,098	△1.8	△198	—
合計	552,025	100.0	555,993	100.0	3,968	100.7

(5) 単体営業利益増減の内訳

(単位: 百万円)

	平成29年 第3四半期		平成30年 第3四半期		増減額	増減率 (%)
	金額	%	金額	%		
営業利益						
山崎製パン (デイリーヤマザキ事業を除く)	17,585	3.4	14,062	2.7	△3,523	△20.0
デイリーヤマザキ事業	△810	△1.6	△806	△1.7	4	—
合計	16,774	3.0	13,255	2.4	△3,518	△21.0

<山崎製パン (デイリーヤマザキ事業を除く) 増減内訳>

(単位: 百万円)

	平成29年 第3四半期		平成30年 第3四半期		増減額	増減率 (%)	営業利益増減要因
	金額	%	金額	%			
売上総利益	163,637	32.0	163,444	31.6	△193	△0.1	売上高の増加 2,793 原材料費の減少 581 労務費の増加 ▲485 経費の増加 ▲1,014 償却費の増加 ▲1,142 仕入品等の増加 ▲926
販売費及び一般管理費	146,052	28.5	149,382	28.8	3,330	2.3	人件費の増加 ▲859 経費の増加 ▲2,851 償却費の減少 380

(注) 「営業利益増減要因」欄で▲は営業利益のマイナス影響を表しています。

「%」欄は山崎製パン (デイリーヤマザキ事業を除く) の売上高に対する比率を記載しています。